



射水市立大門小学校 学校だより



三輪の結

大門っ子

第16号

令和5年1月10日

## 大きく揺れた令和6年能登半島地震

1月1日午後4時過ぎ、車を運転していました。信号で停車すると、車が大きく揺れ出しました。突風が吹いたのかと思いましたが、ぐるんぐるんとうねるように車が大きく揺れ、体験したことのない恐怖に襲われました。これはかなり大きな地震だと思い、急いで家に帰ると食器や皿、本などいろいろなものが落下し、1階も2階も足の踏み場のない状態でした。片付けもそこそこに学校へと向かいました。

津波の遡上や家屋の倒壊などの危険を感じた180人ぐらいの地域の方々が避難されていました。教頭が市の職員と共に避難された方々の対応に当たり、毛布や水などを配りました。自宅で待機された保護者の皆様も断続的に頻発した余震に対して、不安な一晚を過ごされたことと思います。幸い怪我や大きな被害の報告などはありませんでした。

日が経つにつれ徐々に被害の全貌が明らかになってきました。珠洲市では建物の9割が全壊し、輪島市では200戸もの家が焼失しました。200人以上の方々が亡くなり、安否不明者もまだまだ多数いらっしゃいます。痛ましい限りです。県内でも氷見市や高岡市では断水や停電の被害があり、復旧にはまだまだ時間がかかりそうです。

新学期が始まりましたが、余震が続き、予断を許さない状況であります。学校へ行くことについて、子供たちが不安を抱えているようでしたら、ご相談ください。また、保護者の皆様もくれぐれもお気を付けていただきたいと思います。

自然災害は人間の小さな力ではどうしようもありません。起きてしまったことを嘆くのではなく、今こそ小さくともみんなで力を合わせて大きな力とし、この難局を乗り越えていきましょう。

## 3学期が始まりました！

昨年は、学校運営に対してご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。

本年も全教職員が一丸となり、子供たちの教育に当たりたいと思います。変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたします。



## 先生も頑張っています！版画指導講習会！

3学期の図画工作科では「版画」の作品づくりに取り組みます。そこで、自分が気に入る作品になるよう先生方を対象に版画指導法の講習会を行いました。

12月25日（月）に講師として元大門小学校長で、図工や美術が専門の荒治 和幸先生をお招きしました。始めに、「版画とは、木、金属、石などの版をなかだちとして、絵の具やインクで紙に絵を写し取る間接的な表現です」そして、「複数枚つくることのできる特徴があります」と説明されました。版の形式には、凸版・凹版・平板・孔版があり、今回は凸版の木版画作りに挑戦しました。

事前に先生方が描いてきた下絵を版に転写し、実際に掘り進めました。その前に荒治先生から「一番大事なことは子供たちにケガをさせないことです。そのためには、①授業の終わりをそろえること、もう少しやらせると急いでしまいケガをします。②彫刻刀を持ってふらふら立ち歩かないことです」と確認されました。そして、彫刻刀の持ち方は、持ち手の上にもう片方の手を添えるようにすることだと学びました。

最後に先生から「図工では、先生も子供たちと一緒に絵を描いたり、工作したりすることを楽しむことが大切です」と教えていただきました。一生懸命掘り進め、版を刷り、仕上がった作品を手にとって、先生方も子供のように嬉しそうでした。3学期の子供たちの版画制作が楽しみになりました。



## 校内書初大会

始業式の後、校内書初大会を行いました。

今年の題材は1年生「みらい」、2年生「たて山」、3年生「正しい心」、4年生「元気な子」、5年生「広い世界」、6年生「春待つ心」です。なお1・2年生は硬筆墨、3～6年生はだるま筆を使います。書初をしている子供たちの様子を見て回りました。「心を落ち着かせて書こう」「練習の成果を発揮しよう」「集中していい字にしよう」「書き終わっても静かに待とう」など、どの学年にもピンと張りつめた厳粛な空気が漂い、真剣に筆を走らせる凛とした子供たちの姿を見ることができました。とても素晴らしい光景でした。

（校長 阿尾昌樹）

